

第3章

心を育むまちづくり

地域社会と一体となった子どもたちの「主体的・対話的で深い学び」の推進、すべての町民の多様な学びの機会やスポーツに親しむ環境の充実、文化芸術活動の推進と歴史資産の保全・活用等、人を育み、町の貴重な文化、歴史を次世代に継承するまちづくりに取り組めます。



第1節 豊かな学びが育む人づくり

- 1 質の高い学校教育の推進
- 2 児童生徒の安全確保と心身の健康増進
- 3 生涯を通じた学びの充実とその成果の活用
- 4 地域で育てる教育体制の充実
- 5 誰もが楽しむことができるスポーツの推進
- 6 豊かな文化の継承と文化財の活用

■章の指標

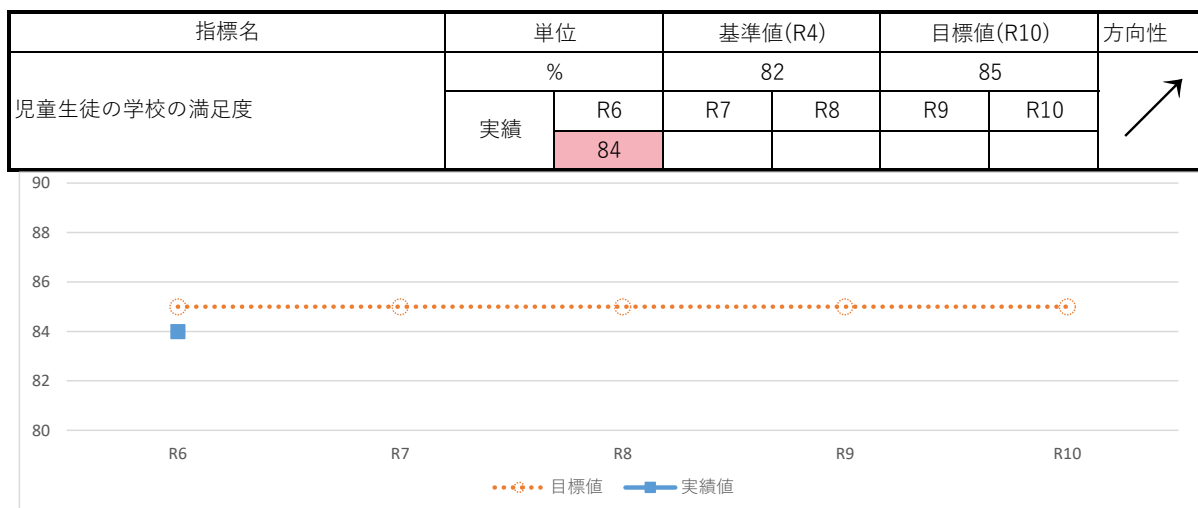
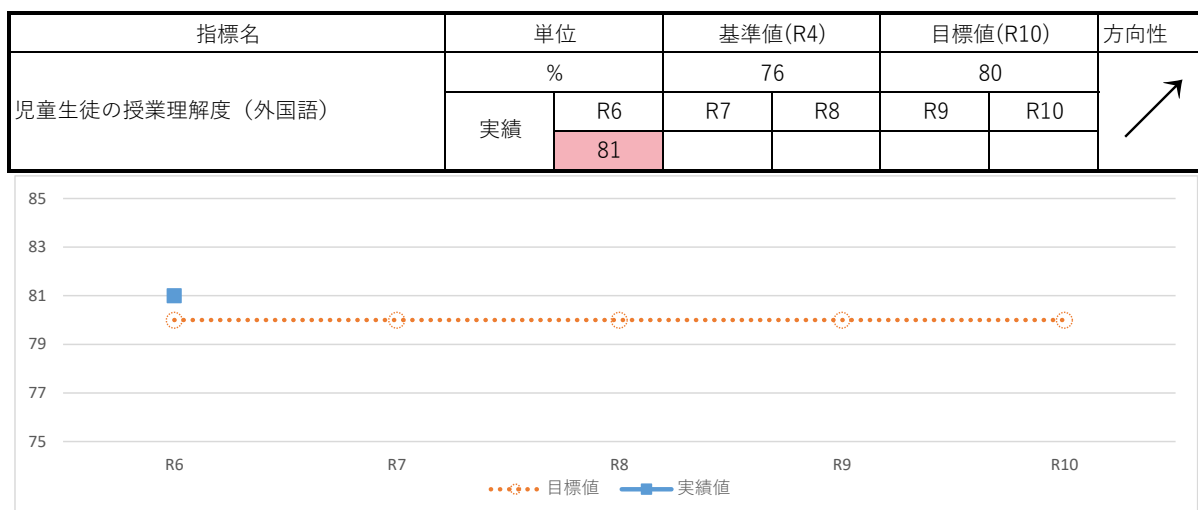
指標名	方向性
教育環境が充実していると感じている町民の割合	↗

■この章に特に関連の深いSDGsのゴール



第3章 第1節 第1施策		関連する SDGs					
節	豊かな学びが育む人づくり						
施策	質の高い学校教育の推進						
目指す姿	すべての子どもたちの可能性を引き出す「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実により、「主体的・対話的で深い学び」による教育が進んでいます。						
関連する課	指導室 学校教育課、生涯学習課				関連する 個別計画	第2次阿見町教育振興基本計画	

施策の現状と課題	学校施設の修繕に対しては計画的に行っているが、学校からの新規要望も多い。 現在スクールカウンセラー2名、スクールソーシャルワーカー2名を、町独自で配置している。どの学校においても、困り感をもつ児童生徒、保護者が多く、年々相談件数が増加している。希望しても、相談ができない現状も見られる。
----------	--



施策の進捗	今後の取組方針
B	町と学校が連携し、都度見直しを行い、学校施設の運営を図る。 次年度に向けて、あらゆる課題に対応できるよう、検討する。
進捗の評価基準	A 順調に進捗している B 概ね目標達成に向けて進捗している C 一部進捗に遅れが生じている D 進捗が大幅に遅れている

事業の成果	
R6	全小中学校に外国語指導助手（ALT）を配置し、英語教育の充実を図った。 専科教員を配置し、専門的な授業を各校で実施した。 ICT支援員を配置し、ICTを活用した授業の支援、ICT化による教員の業務負担軽減を図った。 スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカーを配置し、相談や支援を行った。 阿見第二小学校、君原小学校に続き、阿見第一小学校、舟島小学校で学校運営協議会を設置した。
R7以降	（次年度以降、こちらの欄に、毎年度事業の成果を記載します）

今後発生が予測される課題
特になし。

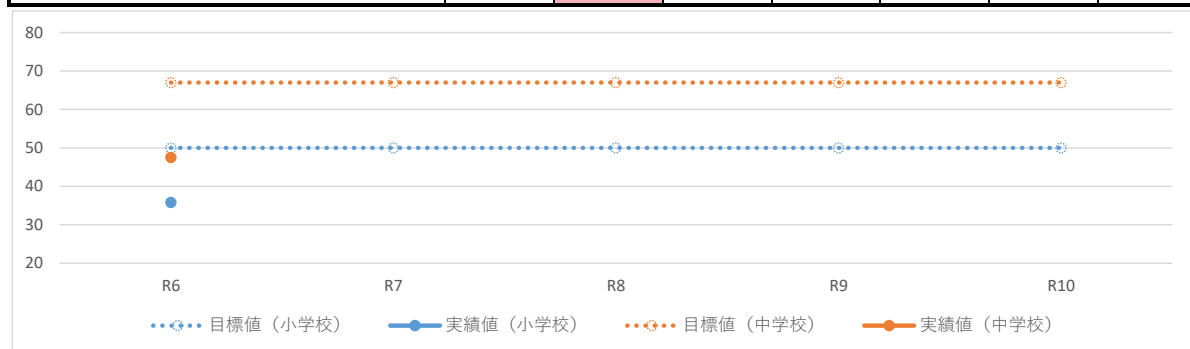
施策の評価	施策の方向性・取組方針
II	学校運営のあらゆる面で地域とのかかわりが重要となってきた。そのカギを握るコミュニティスクールの導入を計画どおり推進するとともに、導入のねらいをさらに明確化し、学校を地域が温かくサポートしてくれるコミュニティを創出する。 部活動の地域移行（展開）に遅れがみられることから、指導者募集を強化し、もう一段ギアを上げて取り組む。
施策の評価基準	I 現状のまま継続する II 一部見直し等の余地がある III 見直し等の余地が大きい IV 抜本的に見直し等が必要

施策の目標達成のための個別施策		
個別施策	前期期間の取組の成果	主な事務事業
時代に合った確かな学力を育成する教育の推進	外国語教育の充実、教育のデジタル化、教科担任制が進み、多文化への理解、情報モラル、学びへの興味・関心が育まれ、確かな学力が定着しています。	英語教育推進事務 小学校専科教員配置事務 ICT活用推進事務
学校の働き方改革と教職員の支援	部活動の地域移行、学校サポーター、ICT支援員等、様々な取組により教職員の働き方改革が進み、子どもたちと向き合う時間が確保されています。	教師の働き方改革推進事務 ICT支援員配置事務
特別な支援を必要とする児童生徒の教育の推進	支援を必要とする児童生徒一人一人の教育的ニーズに対応した、きめ細かな指導が行われています。	特別支援教育支援員配置事務 専門家派遣事務
安定した質の高い教育の提供	地域の実情に即した適正な学校規模が実現しています。また、不登校等の児童生徒が抱える様々な問題にきめ細かに対応できる相談・支援体制が整っています。	学校施設整備事業 スクールカウンセラー配置事務 スクールソーシャルワーカー配置事務
学校、家庭、地域等の連携の充実	学校運営に地域の声が活かされ、地域と一体となった特色ある学校づくりが進んでいます。	コミュニティ・スクール（学校運営協議会）事務

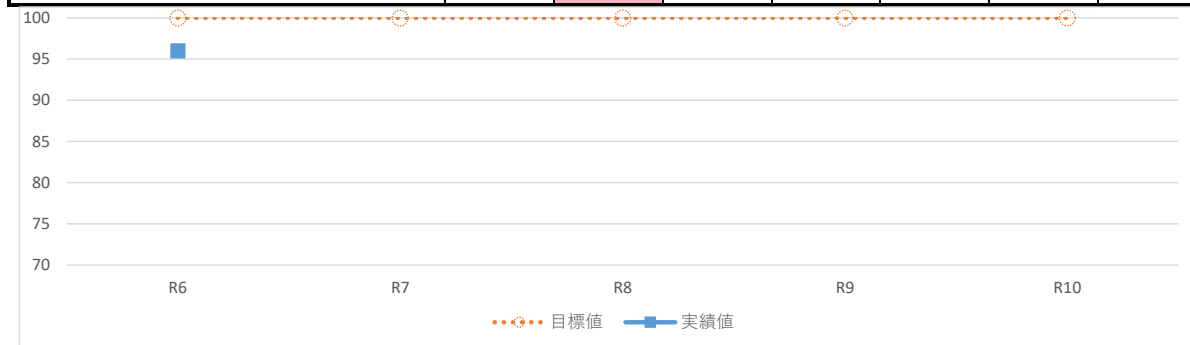
第3章 第1節 第2施策		関連する SDGs				
節	豊かな学びが育む人づくり					
施策	児童生徒の安全確保と心身の健康増進					
目指す姿	快適で安全・安心に学べる教育環境の中で、児童生徒が健やかに成長し、豊かな心が育まれている。					
関連する課	学校教育課 学校給食センター、道路課			関連する 個別計画	第2次阿見町教育振興基本計画	

施策の現状と課題	学校給食で県産食材の占める割合は、県内自治体で1位になっている。 虫歯率も高くなく、現状で十分に対応できている。
----------	---

指標名	単位	基準値(R4)		目標値(R10)		方向性
小学校スポーツテスト（A+B）の割合	%	34.6、56.4		50、67		↗
中学校スポーツテスト（A+B）の割合	実績	R6	R7	R8	R9	
		35.8、47.5				



指標名	単位	基準値(R4)		目標値(R10)		方向性
学校給食で県産食材の占める割合	%	100		100		→
	実績	R6	R7	R8	R9	
		96				



施策の進捗	今後の取組方針
B	子どもたちが安全安心な登下校ができるよう、今後も児童生徒に対し指導啓発を行っていく。 児童生徒の健康保持増進のため、健康状態の把握を学校と町で密に連携していく。
進捗の評価基準	A 順調に進捗している B 概ね目標達成に向けて進捗している C 一部進捗に遅れが生じている D 進捗が大幅に遅れている

事業の成果	
R6	学校給食における県産食材の割合は、高い水準を維持している。目標値に近づけるよう、献立作成の工夫を継続していく。 学校健康診断、体力テストを実施し、児童生徒の健康保持、健康教育に役立てた。 交通安全対策グッズとして反射シールや反射タスキを配布し、交通安全に寄与した。 緊急メールアプリの利用促進及び周知徹底を図った。 防犯対策として防犯カメラの更新とインターホン工事を行い学校の安全と防犯に努めた。 朝日中学校で長寿命化改修工事を行った。
R7以降	(次年度以降、こちらの欄に、毎年度事業の成果を記載します)

今後発生が予測される課題
特になし。

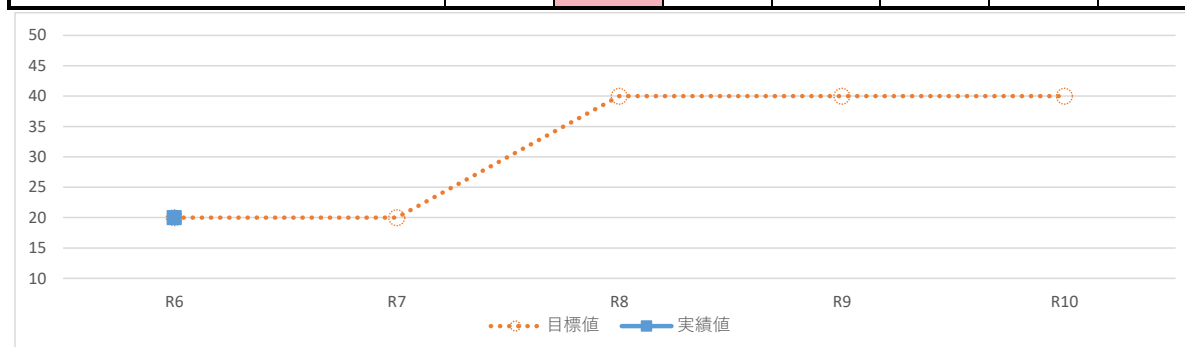
施策の評価	施策の方向性・取組方針
I	概ね施策目標どおり進捗しているため、現状の方向性を維持する。 給食の県内食材使用率1位であることなど、阿見町の給食の良い点をしっかりと発信していく。 学校施設改修など大規模事業については、予防保全の観点から計画的な改修の実施にむけたスケジュールを立案する。また、改修に必要な国庫補助の獲得に努める。
施策の評価基準	I 現状のまま継続する II 一部見直し等の余地がある III 見直し等の余地が大きい IV 抜本的に見直し等が必要

施策の目標達成のための個別施策		
個別施策	前期期間の取組の成果	主な事務事業
豊かな人間性と健やかな体の育成	児童生徒の健康の保持・増進が図られ、運動に親しむ資質や能力の基礎がつくられています。また、規則正しい食生活を通して健やかに成長し、生きる力が育まれています。	学校保健事務 食育活動事務
児童生徒の安全を守る環境の整備	児童生徒の登下校時や学校生活における安全・安心な環境が確保され、学校での安全教育が効果的に推進されています。	交通安全対策事務 通学路安全対策推進事務 学校防災対策事務
学びの場としての学校環境の整備	学校施設・設備の計画的な維持管理及び整備により、安全で安心して学べる教育環境が整っています。	学校施設整備事業

第3章 第1節 第3施策		関連する SDGs	4 質の高い教育をみんなに 11 持続可能な都市を創る 16 平和と公正 17 パートナーシップで未来を創る
節	豊かな学びが育む人づくり		
施策	生涯を通した学びの充実とその成果の活用		
目指す姿	すべての町民が等しく生涯にわたり学び続けられる機会が提供され、一人一人が住み慣れた地域で豊かな人生を送ることができる環境づくりが進んでいます。		
関連する課	生涯学習課 中央公民館、図書館、予科練平和記念館	関連する 個別計画	第2次阿見町生涯学習推進計画

施策の現状と課題	生涯学習に関する情報提供や普及促進に努め、様々な関係機関と連携・協働していくことで、公民館活動、ふれあい地区館事業、図書館、予科練平和記念館等、多様な学習機会の提供ができています。
----------	--

指標名	単位		基準値(R4)		目標値(R10)		方向性
あみ未来塾の受講者数	人		-		40		↗
	実績	R6	R7	R8	R9	R10	
		20					



施策の進捗	今後の取組方針
B	生涯学習を推進するとともに、あみ未来塾のように講義形式だけではなく、自ら疑問を持ち課題を見つけ、新たな考えを創造する取り組みを進めるといったことも重要と考える。
進捗の評価基準	A 順調に進捗している B 概ね目標達成に向けて進捗している C 一部進捗に遅れが生じている D 進捗が大幅に遅れている

事業の成果	
R6	あみ未来塾では、新規および継続の2コースを開講した。新規コースでは14名、継続コースでは6名の参加があった。最後に、塾生によるプレゼンテーションを行い、地域のリーダーとなる人材の育成に努めた。ふれあい地区館では18行政区で出前講座を実施した。実施地区の増加に向けて、社会教育指導員から地区の委員へ、事業の提案・募集をした。図書館の貸出点数は190,845点、内児童書は72,026点となった。予科練平和記念館は開館15周年を迎え、企画展を行い、年間で56,799人が入館した。
R7以降	(次年度以降、こちらの欄に、毎年度事業の成果を記載します)

今後発生が予測される課題
地域の実情・ニーズに合わせた生涯学習が提供できることが重要であるとする。

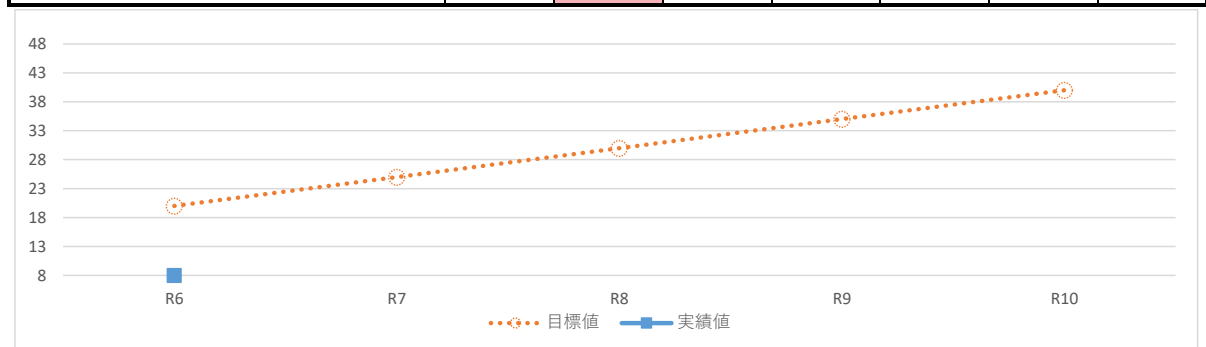
施策の評価	施策の方向性・取組方針
II	多世代交流拠点としての公民館等機能が最大限発揮されるよう、地域特性を踏まえ、町民ニーズを把握し、講座等の充実を図る。その際対象年代に偏りが生じないように配慮する。図書館の児童図書コーナーを拡充するとともに、高校生会による読み聞かせなど「人が集まる図書館」を目指す。予科練平和記念館の改修による休館期間を利用し、所蔵史料の整理を進めるとともに、財源の一つであるふるさと納税を獲得するためのPR施策を強化する。
施策の評価基準	Ⅰ 現状のまま継続する Ⅱ 一部見直し等の余地がある Ⅲ 見直し等の余地が大きい Ⅳ 抜本的に見直し等が必要

施策の目標達成のための個別施策		
個別施策	前期期間の取組の成果	主な事務事業
誰もが気軽に学び、互いに学び合える機会の充実	地域の実情に応じた本町らしい活動が充実し、誰もが学べる機会が提供され、多様な人材が地域とのつながりを持ちながら活躍しています。	あみ未来塾、大学連携公開講座事務、あみ子ども大学事務、いきいき学びの町AMI推進会議、人材バンク事務、情報共有化事務
公民館活動の充実と活用	多世代のニーズに合わせた魅力ある学習機会の提供により、町民の学び合いや交流の充実が図られています。	公民館・コミュニケーションセンター定期講座事務
ふれあい地区館活動を通じた地域の連携強化	地域の特色に応じた魅力的なイベントが開催され、多くの町民が積極的に参加し、世代間交流や地域間交流が活性化しています。	ふれあい地区館活動事業
図書館の充実と活用	図書館サービスが充実し、多くの子ども、多くの町民が読書に親しんでいます。	図書館サービス事務 子ども読書活動推進事務 文化教育振興事務
予科練平和記念館の充実と活用	予科練平和記念館を平和教育の拠点として、予科練の歴史や本町の戦史が多くの人々に正確に伝承されることで、平和を希求する機運が醸成されています。	予科練平和記念館運営事務 教育普及事務

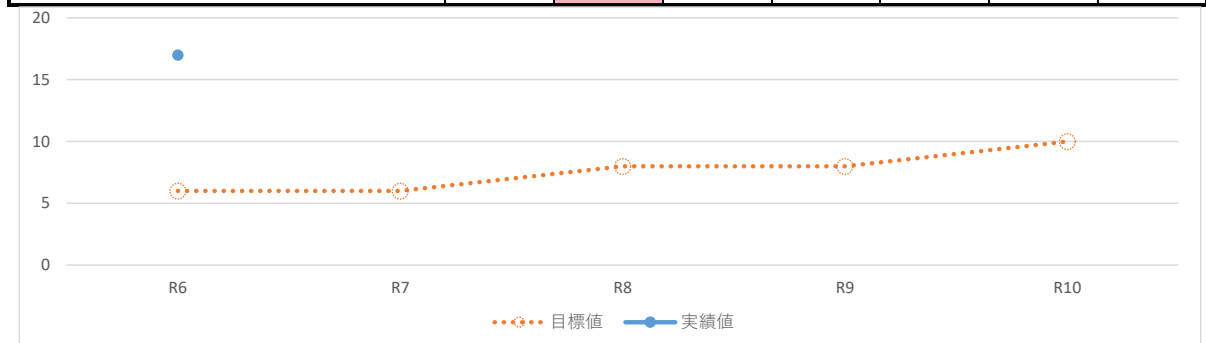
第3章 第1節 第4施策		関連する SDGs		
節	豊かな学びが育む人づくり			
施策	地域で育てる教育体制の充実			
目指す姿	地域を支える多様な人材が活かされ、家庭や子どもの教育が充実し、若者が地域で活躍しています。			
関連する課	生涯学習課	関連する 個別計画	第2次阿見町生涯学習推進計画	

施策の現状と課題	地域住民や団体等が小学校と連携を図り、子どもたちに様々な学びの場を設け、体験活動の機会を提供した。本郷小学校区放課後児童クラブを新築したことにより、部屋を増やし定員が拡大した。若者に対して奨学金の「返還支援型」と「海外留学補助型」の募集を募り補助金を交付しているが、申請件数の伸び悩みが生じている。
----------	---

指標名	単位	基準値(R4)		目標値(R10)		方向性
奨学金返還支援補助金及び人材育成海外留学奨学補助金の交付件数	件	12		40		
	実績	R6	R7	R8	R9	R10
		8				



指標名	単位	基準値(R4)		目標値(R10)		方向性
高校生会の活動回数	回	-		10		
	実績	R6	R7	R8	R9	R10
		17				



施策の進捗	今後の取組方針
B	奨学金返還支援補助金及び人材育成海外留学奨学補助金の制度改正に向けて近隣市町村の調査を行う。本郷小学校区放課後児童クラブの利用希望者は今後も増加することが見込まれることから、支援員の増加を検討する。
進捗の評価基準	A 順調に進捗している B 概ね目標達成に向けて進捗している C 一部進捗に遅れが生じている D 進捗が大幅に遅れている

事業の成果	
R6	・奨学金返還支援補助金は7件（うち継続6件、新規1件）、人材育成海外留学奨学補助金は1件の交付を行った。 ・家庭教育学級において講師紹介のサポートを行うとともに、家庭教育講演会を開催した。 ・共に育む「教育の日」講演会と人権教育講演会を1回ずつ開催した。 ・高校生会では、町事業をはじめ様々な催事等に参加するとともに、研修会や自主企画等の開催を通して、高校生が主体的に町との関りを持ち、理解を深めた。
R7以降	（次年度以降、こちらの欄に、毎年度事業の成果を記載します）

今後発生が予測される課題
奨学金返還支援補助金及び人材育成海外留学奨学補助金の周知方法や制度について検討する必要がある。 また、放課後児童クラブの待機児童解消方法を調査する必要がある。

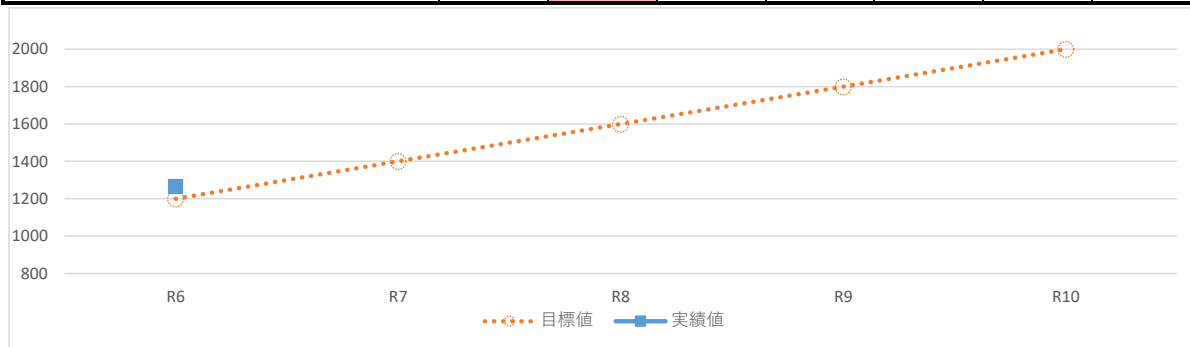
施策の評価	施策の方向性・取組方針
II	子ども会育成会連合会の協力を得ながら、登校班の編成や立哨当番の保護者負担の増加など、顕在化している問題を解決できるよう取り組む。 高校生会の活動が、将来の阿見町を担う人材育成に結びつくよう活動メニューの充実を支援する。
施策の評価基準	I 現状のまま継続する II 一部見直し等の余地がある III 見直し等の余地が大きい IV 抜本的に見直し等が必要

施策の目標達成のための個別施策		
個別施策	前期期間の取組の成果	主な事務事業
家庭の教育力の向上	家庭教育の充実や人材育成のための経済支援により、学びの機会が増え、未来のまちづくりを担う人材が育っています。	家庭教育支援事務 教育の日講演会事務 人材育成奨学支援事業
地域の教育力の充実	地域・家庭・学校・行政が一体となり、子どもたちの教育を支援しています。また、高校生会等の活動により若者の地域への愛着が醸成され、地域を担う人材が育っています。	青少年健全育成事業 高校生会支援事務
青少年健全育成の推進	学校教育と社会教育の機能連携により、子どもたちの学習の質が向上しています。また、地域連携の強化により青少年の健全育成が図られています。	学社連携事業 青少年健全育成事業
多様性と包摂性を育む生涯学習の推進	多様性を認め合い、誰もが差別されない人権意識が地域社会に浸透しています。	人権教育推進事務
子どもの居場所づくりの推進	すべての児童が放課後に安全で安心して活動できる居場所が確保されています。	放課後児童健全育成事業 放課後子ども教育事業 放課後児童施設整備事業

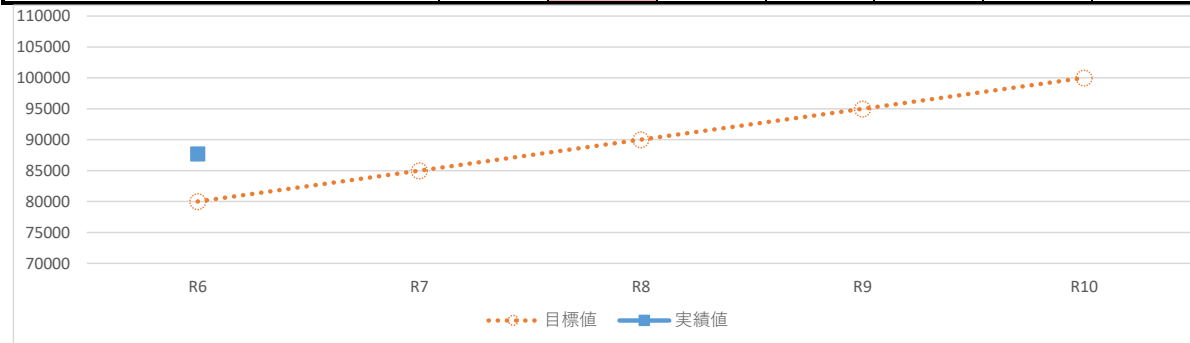
第3章 第1節 第5施策		関連する SDGs	3 持続可能な 社会を実現	11 持続可能な 都市づくり
節	豊かな学びが育む人づくり			
施策	誰もが楽しむことができるスポーツの推進			
目指す姿	ライフスタイルや多様なニーズに対応し、年齢や体力、障害の有無を問わず、誰もが気軽にスポーツを楽しめる環境が充実しています。			
関連する課	生涯学習課	関連する 個別計画	第2次阿見町生涯学習推進計画	

施策の現状 と課題	全町民を対象したスポーツフェスタを開催し、より多くの町民が世代を超えて様々なスポーツで取り組むことができた。 町民体育館に関しては、冷暖房設置を含む大規模改修を行い、令和7年4月より開館したことによりスポーツやレクリエーション等の活動を推進することができた。
--------------	---

指標名	単位		基準値(R4)		目標値(R10)		方向性
スポーツイベントの参加者数	人		811		2,000		↗
	実績	R6	R7	R8	R9	R10	
		1,266					



指標名	単位		基準値(R4)		目標値(R10)		方向性
総合運動公園の年間利用者数	人		78,337		100,000		↗
	実績	R6	R7	R8	R9	R10	
		87,712					



施策の進捗	今後の取組方針
B	多様な運動機会の提供を進めるとともに、運動施設の効果的な活用と維持管理体制の強化を図る。さらに、地域クラブや関係団体との連携、人材育成を通じて、持続可能なスポーツ環境の構築を目指す。
進捗の評価基準	A 順調に進捗している B 概ね目標達成に向けて進捗している C 一部進捗に遅れが生じている D 進捗が大幅に遅れている

事業の成果	
R6	全町民を対象としたスポーツフェスタを開催し、世代を超え多くの町民がスポーツに親しむ機会を創出した。また、空調を含む改修を行った町民体育館がリニューアル開館し、快適なスポーツ環境の充実に図った。 スポーツ教室事業ではeスポーツ教室を初開催するなど、多様なスポーツ環境の構築に取り組んだ。
R7以降	(次年度以降、こちらの欄に、毎年度事業の成果を記載します)

今後発生が予測される課題
ライフステージや生活環境に応じた多様な運動機会の提供が求められている。また、施設の効果的な活用と維持管理体制の確立、地域クラブや関係団体との連携強化、人材育成の仕組みづくりなど、持続可能なスポーツ環境の構築に向けたさらなる取り組みが期待されている。

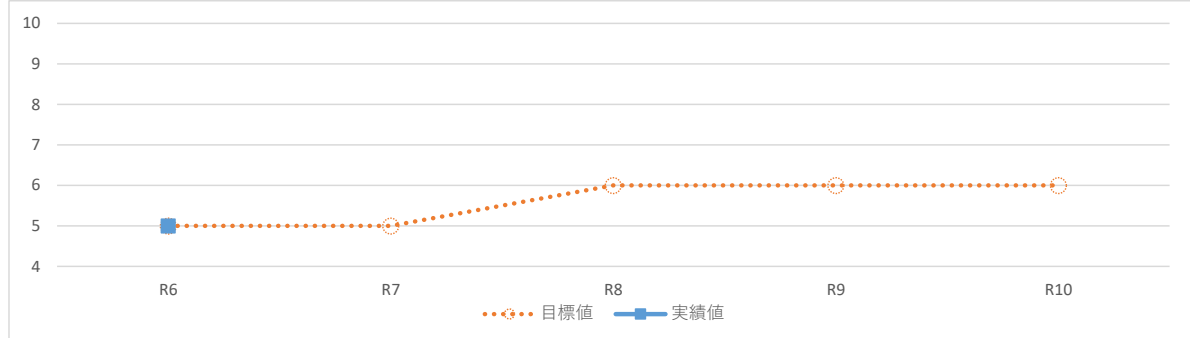
施策の評価	施策の方向性・取組方針
II	誰もが気軽にスポーツを楽しめる環境の充実に向け、イベントの告知も含めた参加しやすい環境と、利用しやすい施設環境を整えるとともに、イベント参加者の声を聴きながら、限られた財源・人員に見合った内容となるよう、必要な見直しを行う。
施策の評価基準	I 現状のまま継続する II 一部見直し等の余地がある III 見直し等の余地が大きい IV 抜本的に見直し等が必要

施策の目標達成のための個別施策		
個別施策	前期期間の取組の成果	主な事務事業
ライフステージに対応した生涯スポーツの推進	より多くの町民がスポーツを身近に感じ、いつでも・どこでも・誰でも楽しめる機会が整っています。	スポーツフェスタ事務 スポーツ教室事業 学校体育施設開放事務 スポーツ大会事業
スポーツに親しめる環境整備	町民のスポーツの拠点として総合運動公園、町民体育館、旧学校体育施設等の体育施設が適切に維持管理され、利用者のために良好な状態が保持されています。 また新たな施設の整備について検討が進んでいます。	総合運動公園維持管理事業 町民体育館維持管理事業 学校体育施設開放事務

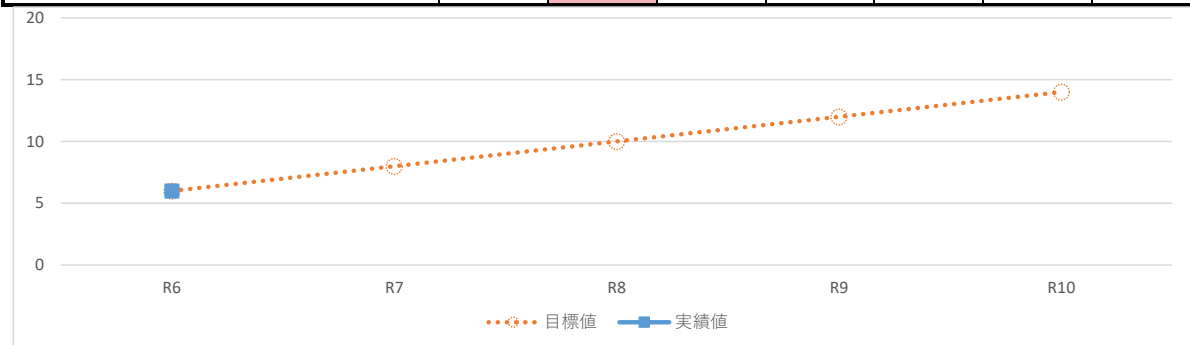
第3章 第1節 第6施策		関連する SDGs	8 働きがい と経済成長	11 持続可能な 都市づくり
節	豊かな学びが育む人づくり			
施策	豊かな文化の継承と文化財の活用			
目指す姿	質の高い多様な文化芸術に触れる機会があり、自然や風土、歴史、文化が世代を超えて受け継がれ、日常生活に深く根づいています。			
関連する課	生涯学習課	関連する 個別計画	第2次阿見町生涯学習推進計画	

施策の現状 と課題	埋蔵文化財の発掘調査成果や戦跡などの地域固有の文化遺産の啓発を推進している。また、文化芸術にふれる機会や伝統文化を次世代に継承することが求められている。
--------------	--

指標名	単位		基準値(R4)		目標値(R10)		方向性
埋蔵文化財の保護啓発件数	件		5		6		↗
	実績	R6	R7	R8	R9	R10	
		5					



指標名	単位		基準値(R4)		目標値(R10)		方向性
普及啓発した戦跡の数	件		4		14		↗
	実績	R6	R7	R8	R9	R10	
		6					



施策の進捗	今後の取組方針
B	県、町が指定する文化財、伝統芸能、民族などを次世代に継承できるよう、また、語り継がれてきた地域の歴史などを継承できるよう促進していく。 戦跡の保全、町史編さんの事業に向けて進捗の管理を行っていく。
進捗の評価基準	A 順調に進捗している B 概ね目標達成に向けて進捗している C 一部進捗に遅れが生じている D 進捗が大幅に遅れている

事業の成果	
R6	歴史や文化財の保護を行っていくうえで、町民のさらなる理解と協力を得ていくためにも、その成果の普及啓発は必要不可欠であるため、中央公民館のロビーにて、町内5遺跡の発掘調査の成果の展示を行った。 また、町の近代化の歴史の一部である戦争遺跡について、広報あみやホームページ等にて6件分の紹介を行った。
R7以降	(次年度以降、こちらの欄に、毎年度事業の成果を記載します)

今後発生が予測される課題
次世代に継承すべき文化や語り継がれてきた歴史が時代の経過とともに消滅しないよう、計画的な保護及び継承の促進が求められる。

施策の評価	施策の方向性・取組方針
II	歴史的・文化的遺産の保存と活用を図るうえでは、事業の継続性・一貫性が特に重要となる。そのためには、必要な財源と人員の確保が不可欠となる。事業環境整備に欠かせない「町文化財保存活用地域計画」の策定を推進する必要がある。
施策の評価基準	I 現状のまま継続する II 一部見直し等の余地がある III 見直し等の余地が大きい IV 抜本的に見直し等が必要

施策の目標達成のための個別施策		
個別施策	前期期間の取組の成果	主な事務事業
価値ある歴史・文化の継承の推進	文化芸術活動が活発に行われ、町民が芸術に身近に触れる機会が充実しています。また、文化芸術活動への興味関心が醸成されています。	文化啓発事業 文化啓発事業
歴史的・文化的遺産の保存と活用	歴史資産が良好な状態で保全され、町の文化遺産として広く歴史的価値が共有されています。	指定文化財保護事業 埋蔵文化財保護事業 町史編さん事務 戦跡保全事務